



# 年間予定 平成26(2014)年度

詳細は、当館ウェブサイト、チラシ、市民しんぶんなどで順次お知らせします。

学校歴史博物館 検索

## 展示

### 短期展示

3月28日[金]  
- 4月8日[火]

収蔵品展 春を描く



春の花 川端清尚 京橋南小学校蔵

企画展 4月12日[土] - 6月30日[月]

小学校の戦前・戦中・戦後 ~2011-2013年度 収蔵品展~

企画展 7月上旬 - 9月下旬

絵画にたくす、こどもへのメッセージ (仮)

企画展 10月上旬 - 12月中旬

衣笠地域と画家 (仮)

企画展 1月上旬 - 3月下旬

京都の高等女学校と女学生 (仮)

## 催し

※参加申込が必要です。

### 夏休み開催予定

明治の小学校 書写教室

博物館たんけんたい

おもちゃの手作り教室

にほん画に挑戦!

### 冬休み開催予定

親子で和風作り挑戦!  
※小学生と保護者対象

各企画展のテーマに沿った講演会・子ども向け体験教室を開催予定

子ども体験教室(小学生対象)

企画展開催講演会・体験教室

### 第3[火]午後2時-3時(8月を除く)

上村淳之館長談話室

[月]午後2時-4時  
唱歌・童謡教室 ※第1回は4/14~開催

[金]午後2時-4時  
合唱教室

[火]午前10時-12時30分  
はじめての日本画

[火]午後2時-4時30分  
日本画教室

[金]午前10時-11時30分  
古文書を読む ※9月・2月に開催予定

2月頃開催予定  
日本刺繍教室

教室・講座(一般対象)



# 京都市学校歴史博物館

〒600-8044  
京都市下京区御幸町通仏光寺下る橋町437  
TEL:075-344-1305 FAX:075-344-1327  
http://kyo-gakurehaku.jp/  
✉rekihakujigyou@edu.city.kyoto.jp

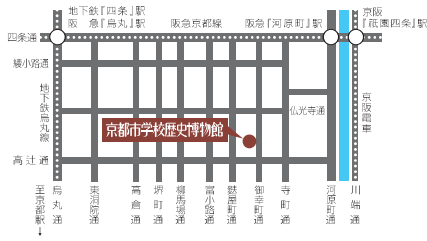
当館は、京都の学校の歴史に関する資料の保存・研究・展示をすすめる博物館です。正門・石塀は、国登録文化財。

京都市学校歴史博物館  
開館15周年

開館時間	午前9時 - 午後5時(入館は4時30分まで)
休館日	水曜日(祝日の場合は翌平日)、12月28日 - 1月4日
入館料	一般200円(160円)、小・中・高生100円(80円) ※( )内は20名以上の団体料金 ※京都市内の小・中学生は土・日曜日の入館無料
交通案内	◆阪急電車「河原町」下車 徒歩約10分 10番出口より南西へ ◆地下鉄烏丸線「四条」下車 徒歩約12分 5番出口より東へ ◆京阪電車「祇園四条」下車 徒歩約15分 3番出口より南西へ ◆市バス「四条河原町」下車 徒歩約10分 南西へ ◆市バス「河原町松原」下車 徒歩約5分 北西へ ※駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。



「洛ナビ」  
携帯はこちら  
から!



京都市学校歴史博物館だより

# 学歴博しんぶん

Vol.27

発行:平成26年2月  
京都市学校歴史博物館

## 開館15周年を迎えました



特別展「近代京都画壇を育んだ人々」会場



15周年記念簡談

おかげさまで開館15周年を迎えることができました。来館者の方々の特徴は他府県からのお客様が多いということ。学校の歴史に特化した博物館は日本でここだけということで見つけて随分遠い所からも来られます。時間をかけてご覧になり、昔をなつかしむとともに郷里にもこのような博物館があったらいいのになあという感想をよくいただきます。みなさん学校で過ごした時間がいつまでも心の宝物になっているんですね。

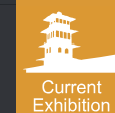
さて、15周年記念特別展「近代京都画壇を育んだ人々」は大盛況! 上村松園をはじめとするきら星のような画家たちの作品が一堂に会しました。併せて実施した上村館長と京都市美術館の吉中充代先生、京都国立近代美術館の小倉実子先生の鼎談も超満員! 館長のユーモアを交えた日本画談義はとて興味深くおおいに盛り上がりました。

これからも来館者の皆さま方に「来てよかったなあ」と心から思っていただけのように取り組んでまいります。「おもてなし」期待してくださいね。



濱井事業課長

# 青春と学校生活



企画展

~戦後京都の中学・高校生活~

平成26年3月25日[火]まで

あの青春の日々に逢える一

本展では、京都市内の中学・高校生活を舞台に、戦後から近年までの「青春」にちなんだ資料92点を展示しております。青春時代の一コマを記録した写真を中心に、制服や教科書、文集などを通して、「青春」とは何か、中学・高校生活とは何なのか、思いをめぐらせていただくと幸いです。(本紙2ページの資料紹介もご覧ください。)



1947(昭和22年)東京「民主主義」の講義をする日高占徳軍兵士



1961(昭和36年)頃 修学旅行列車「きぼう号」の中で



1999(平成11年) 未成年の主張



1980年代の制服(村田堂蔵)



## 学歴博の資料紹介



1971 (昭和46)年 フォークダンス(京都市立中学校)

この資料は、企画展「青春と学校生活」で展示中！  
ぜひご覧ください！！(3月25日まで)

### 「青春」の象徴フォークダンス

今から約60年前、1950年代前半から、中学校の行事の一環としてフォークダンスがとり入れられました。男女が手をとって踊るフォークダンスは、第二次世界大戦後に誕生した公立の新制中学校が男女共学になったことの象徴、「青春」の象徴です。「オクラホマミキサー」や「マイムマイム」などのメロディーに乗せ、男子と女子が照れながら指先だけで手をつなぎ踊る光景は、各中学校で見られました。しかし、1970年代後半になると、次第に学校行事から消えていきました。この写真は、1971(昭和46)年に京都の市立中学校で撮影されたもので、当時のフォークダンスの特徴がよく表れています。

(学芸員:和崎光太郎)



## 「こんにちは、市民学芸員です」

市民学芸員の「日誌」から、ある日の館内の様子をご紹介します。日誌では、市民学芸員の皆さんがその日に気づかれたことをご自由に書いていただき、当館スタッフとやり取りしています。  
※市民学芸員…ボランティアで展示室での案内をさせていただいている市民の皆さま。

6月24日[月]

今日から展示室でオルガンの音が聞こえ出しました。展示室の雰囲気が、なんだか和やかになりますね。「故郷」の曲に合わせてお客さまも口ずさんでおられましたよ。展示してあるリードオルガンを実際に弾いて、11曲を録音されたんですね！来館者の皆さまにもぜひご説明したいと思います♪

市民学芸員H

音楽が流れているだけで、展示室内の空気が動いている気がしますね♪ スタッフO



12月13日[金]

関東方面からご来店いただいたお客様。「自分たちが食べた給食と違って、こちらのは随分と馳走に思えました。」とお話されていましたよ。

市民学芸員F



都道府県によって給食は大分違ってましたよ。 スタッフO

### 募集！市民学芸員

「市民学芸員」として、当館でご活動いただける新しいメンバーを募集中！  
詳細はどうぞお気軽にお問い合わせください。



## 学歴博日記

京都市学校歴史博物館での催しの様子をご紹介します。平成26(2014)年も、たくさんの皆さまのご参加をお待ちしています！

平成25年  
6/1  
[土]

### 明治期の唱歌をよみがえらせる試み

—講演会「京都の懐かしい音楽教科書」—

会場はあたたかい雰囲気、講演会というよりは漫談に近かったかもしれません。多くの方が参加してくださり、楽しくお話をさせていただきました。明治期の唱歌を、当時のヤマハ製オルガンの演奏(鈴木開氏)と歌唱(田中伸一氏)で復活させる試みは、大成功！当日のお話をまとめた論文「京都番組小学校における唱歌教育の導入」(研究紀要第2号)もぜひお読みください。当館公式ウェブサイトでご覧いただけます。

(スタッフW)



平成25年  
8/4  
[日]

### 昔の小学校で学ばれていた日本画

—夏休み子ども体験教室「にほん画に挑戦！」—

京都の昔の小学校で学ばれていた日本画にふれた31名の小学生たち。日本画家の山下山人先生と助手の先生方を含め3名の講師にご指導いただき、うちわに好みの絵を描きました。慣れない毛筆や日本画の画材である顔料を使って描くことは難しかったかもしれませんが、子どもたちは興味津々に目を輝かせて楽しみながら学ばれました。京都の伝統産業の基本となる日本画を体験したことが、夏休みの特別な思い出になっていれればいいと思います！

(スタッフY)



平成25年  
9/27  
[金]

### 京都に伝わる古文書を解読

—講座「古文書教室」—

平成15年度から続く、京都造形芸術大学客員教授の五島邦治先生による人気講座。この日の題材は祇園祭の山鉦町に伝わる「船鉦町文書」。町内へ神幸祭巡行前日までの注意事項を連絡したこの文書で特に念押しされたのは「火之用心」です。鉦の上は火気持込み厳禁の他、宵山にあたる日には提灯や蠟燭も火を消すようにとの指示が。当時の宵山の光景を想像すると興味は尽きません。崩し字の読み方だけでなく歴史や時代背景を学びながら読み解くこの講座、次回は2月に開催します！

(スタッフT)



平成25年  
11/15  
[金]

### 「描き続けや。」力強い言葉に感動

—特別授業「教えて！上村先生！」—

この授業では、銅駝美術工芸高等学校の生徒たちが、上村淳之館長の解説で展示作品を見ながら、自分たちが志す日本画の魅力について改めて考えました。土田麦麩の筆運びや福田平八郎の色使いなど、作品の細部にまで目を凝らす生徒たちの顔がとて印象的でした。

「君たち、描き続けや。やめたらあかん。」日本画家である上村館長の言葉にも勇気付けられ、生徒たちにとって充実した時間になったようです。

(スタッフM)

